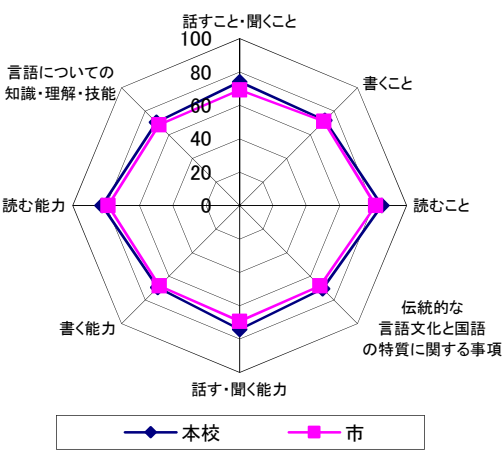


宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.2	69.3	73.4
	書くこと	72.3	71.3	74.6
	読むこと	85.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.4	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	74.2	69.3	73.4
	書く能力	69.4	68.1	71.7
	読む能力	82.4	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	70.5	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

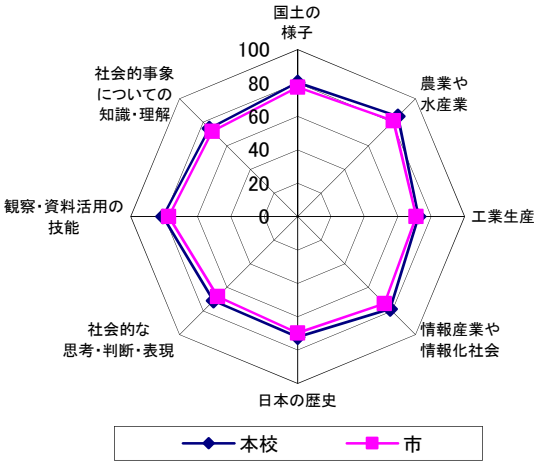
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞き取る問題では、市の正答率を6. 2ポイント上回った。	・普段から、聞き取った内容を簡潔にまとめる活動を学習活動に取り入れ、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる力を養う。
書くこと	○指定された長さで文章を書き表す問題では、市の正答率を3. 2ポイント上回った。 ●2段落構成で文章を書く問題では、市の正答率を3. 2ポイント下回った。	・様々な教科の授業の中で、条件に合った文章を書かせる活動を多く取り入れ、自分の言葉でまとめていく力を養う。
読むこと	○登場人物の心情を読み取る問題では、市の正答率を6. 4ポイント上回った。 ○場面の描写を読み取る問題では、市の正答率を5. 4ポイント上回った。	・文章の読み取りの学習では、大切な言葉に線を引いたり、印を付けたりして言葉と言葉のつながりを確認していくことで、内容を的確に読み取る力を養う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○三字の熟語の構成についての問題では、市の正答率を10. 9ポイント上回った。 ○同音異字についての問題では、市の正答率を9. 5ポイント上回った。 ●敬語(謙譲語)の使い方の問題では、市の正答率を3ポイント下回った。	・目上の人に対する話し方を、学校生活の具体的な場面において指導し、敬語(謙譲語)を意識的に使う環境を整えていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.4	77.5	74.0
	農業や水産業	84.9	81.1	73.7
	工業生産	72.5	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	78.4	73.7	63.2
	日本の歴史	72.2	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.3	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	80.6	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	74.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

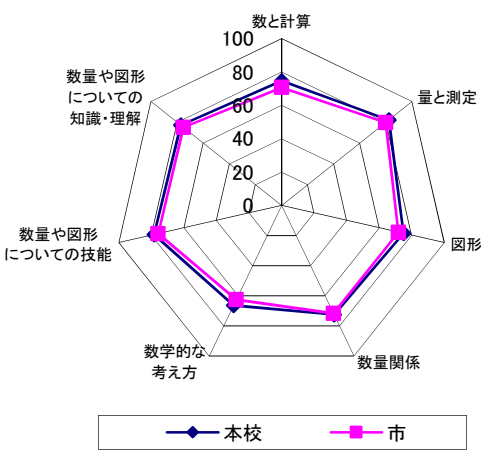
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○国土周辺の海洋名では市の正答率を9.9%、日本の周辺国の国旗に関しては市の正答率を5.1%上回った。 ●森林を守るための「間伐」についての理解が、市の正答率を4.5%下回った。	・授業中、地図帳で国名や地形を確認する習慣を身に付けさせる。また、世界地図などを教室に掲示し、目に触れる機会を多くするなど学習環境を整える。 ・農業や水産業に関しては、仕事内容のイメージをもって学習に取り組めるが、林業に関しては、イメージしにくく関心も薄い。映像などを利用して、仕事に対して関心を深めさせ理解を深めさせる。
農業や水産業	○日本の食糧自給率を外国と比べるグラフの読み取り問題では、市の正答率を7.5%上回った。 ●日本の食糧生産が抱える課題について、資料を読み取る問題では、市の正答率を上回っているものの、本校の正答率も60.4%と低い。	・単元に出てくる資料やグラフを確実に扱うとともに、デジタル教材を活用するなどして、多くの資料に触れさせるようにする。
工業生産	○工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える問題では、市の正答率を5.1%上回った。 ●工業製品を工業の種類別に分類整理する問題では、市の正答率を2.1%下回った。	・日常生活における様々な工業製品に目を向けさせ、新聞等にまとめる活動を通して、理解を深めさせていきたい。
情報産業や情報化社会	○情報ネットワークの利便性を読み取る問題では、市の正答率を5.9%上回った。 ○身の回りのマスメディアについての問題では、市の正答率を3.5%上回った。	・多様な情報メディアの特性を理解しながら、情報ネットワーク等の言葉に対する理解を、更に定着させていく。
日本の歴史	○飛鳥時代から江戸中期までの文化や政策についての理解に関する問題では、市の正答率を2%から11%上回った。 ●幕末から文明開化、更に明治維新にかけての理解では、5.4%から7.6%下回った。	・近代の学習に近づくにつれて、時間がなくなり、指導が手薄になりがちである。教師側も時間の確保と指導を工夫する。 ・重要な語句や出来事については、そのはその背景や意味も含めて理解できるようにするため、自分の言葉でまとめを行う時間を確保する。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.7	70.8	65.9
	量と測定	82.3	79.9	77.0
	図形	74.9	71.8	74.6
	数量関係	72.4	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	66.3	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	78.3	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	77.2	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

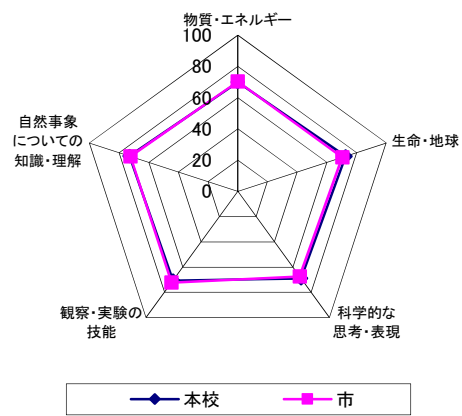
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、市の平均を11.1ポイント上回った。 ●問題の場面を理解し、式の表しているものを選ぶ問題では、市の平均を4.6ポイント下回った。	・基本となる事柄や、下学年の内容を確実に身に付けながら、当該学年の学習内容を身に付けていけるよう自主学習や朝の学習を活用して、反復練習させる。 ・児童が身に付けてきた計算の技能を生活や学習に活用して問題解決に生かすようにする活動を積極的に取り入れる。
量と測定	○図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題では、市の平均を6.3ポイント上回った。 ●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、市の平均を0.4ポイント下回った。	・空間図形と既習の図形の面積の求め方を関連付けて図形の見方を働かせ、体積の求め方を考えたり、公式を導いたりする過程を繰り返す練習を多く取り入れる。計算による体積の求め方を考えるとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確に問題解決ができるようにする。
図形	○三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、市の平均を11.8ポイント上回った。 ●点対称な図形の対応する点についての問題では、市の平均を0.4ポイント下回った。	・点対称の意味について、観察や構成、作図などの活動を通して理解できるようにし、点対称な図形、線対称かつ点対称な図形を弁別するなどの活動を通して、具体物を使った実践の機会を増やすことで対称な図形の性質を身に付けられるようにする。
数量関係	○もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを、具体的に説明する問題では、市の平均を7.4ポイント上回った。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均を10.3ポイント下回った。	・文字を用いて表した式について、具体的な事柄を読み取ったり、文字に順序よく数を当てはめたりして、問題解決に生かすようにする活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	70.3	69.0
	生命・地球	72.7	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	68.9	67.5	66.4
	観察・実験の技能	70.7	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	73.0	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○ろうそくが燃える前後の空気中の気体の変化に関する問題では、正答率が84.7%で、市の正答率を9.6ポイント上回った。 ●ふりこが10往復する時間から周期を求める問題では、正答率が61.3%で、市の正答率を7.6ポイント下回った。 ●「水溶液の性質」で、実験結果から水溶液が何であるかを考える問題で、正答率が31.5%と低く、市の正答率を5.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ふりこの1往復する時間の調べ方や、ふりこのきまりについて繰り返し実験をしたり、平均の計算練習をしたりして定着を図る。 ・未知の水溶液を調べる方法については、仮説をたてたり方法を考えたりして、実験に取り組ませる。水溶液の性質を調べる多様な方法について実験を通して身に付くようにする。
生命・地球	○生物どうしの「食べる・食べられる」の説明をする問題では、正答率が88.3%で、市の正答率を11.1ポイント上回った。 ○血液の循環に関する問題では、正答率が85.6%で、市の正答率を6.7ポイント上回った。 「植物のつくりとはたらき」の実験に関する問題では、2問とも正答率が90%を上回った。 ●セロリのくきで、水が通る部分を答える問題では、正答率が49.5%と低く、市の正答率を6.8ポイント下回った。	・植物に取り入れられる水の通り道に関しては、教科書に例示された植物について予想を立てて観察し、共通点を考察する。そのことで、どの植物にも水の通り道があることを理解させる。